

1. 将来に向けて人的パワーを蓄える

2. 働きやすさと働きがいの向上

3. 「人」と「DX※1」が完全調和した
介護福祉サービスの提供

4. 地域が必要とする
福祉サービスの創設

※1 環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、介護サービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、風土を変革すること（参考：「DX推進指標」における「DX」の定義（経済産業省））



令和3年度「安全衛生に係る優良事業場等に対する安全衛生努力賞」三重労働局長表彰施設



社会福祉法人 鈴鹿福祉会
鈴鹿グリーンホーム



鈴鹿グリーンホームHP

I. 課題（地域の社会課題）

(1) 75歳以上の方の人口が急増

(2) 働き手世代が急減

2020.6→2030(推計)

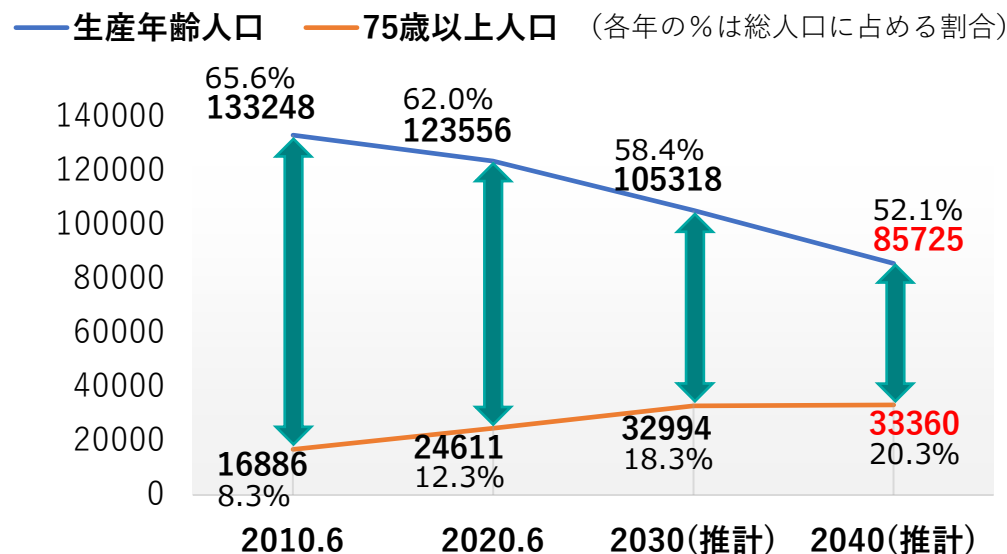
75歳以上人口・・・**約35%増！**生産年齢人口・・・**約30%減！**

75歳以上の方は、
65～74歳まで
の方と比べて、
要介護認定率が
約8倍※2



※2 内閣府「令和4年版高齢者白書(全体版)」：65～74歳と75歳以上の被保険者について、それぞれ要支援、要介護の認定を受けた人の割合を見ると、65～74歳では1.4%、2.9%であるのに対して、75歳以上では8.8%、23.1%となっており、75歳以上になると要介護の認定を受ける人の割合が大きく上昇する(表1-2-2-6)

鈴鹿市の人口動態



【参考】2010年、2020年：鈴鹿市ホームページ／2030年以降：国立社会保障・人権問題研究所「日本の地域別将来推計人口(H30(2018)年統計)」

令和3年度「安全衛生に係る優良事業場等に対する安全衛生努力賞」三重労働局長表彰施設



社会福祉法人 鈴鹿福祉会
鈴鹿グリーンホーム



鈴鹿グリーンホームHP

大きなテーマ「介護サービスの質向上」と同時に「負担を軽減する」

Ⅱ. 社会課題に向けた取組への展開

- ①ICT(情報通信技術)機器を活用する
- ②介護ロボット※3や介護機器を活用する
- ③外国人介護人材を雇用を進める(目標:全介護職員の10%)
- ④高年齢者、障がいをお持ちの方、短時間又は少ない日数であれば勤務可能な方の雇用を進める(目標:全職員の25%)
- ⑤科学的介護情報システム(LIFE)※4のフィードバックを活用する
介護予防教室を開催する
- ⑥日常の取組や情報をホームページなどで公開、広く発信する

これまでの働き方やサービスの
提供方法を変えていく必要が
あるのですね



- ※3 厚生労働省ホームページ：ロボットの定義とは、以下3つの要素技術を有する、知能化した機械システム
・情報を感知（センサー系） ・判断し（知能・制御系） ・動作する（駆動系）
- ※4 厚生労働省ホームページ：
○介護サービス利用者の状態や、介護施設・事業所で行っているケアの計画・内容などを一定の様式で入力すると、インターネットを通じて厚生労働省へ送信され、入力内容が分析されて、当該施設等にフィードバックされる情報システム
○介護事業所においてPDCAサイクルを回すために活用するためのツール



Mind of Suzuka-greenhome “とりあえず、やってみる”

事例
01

特別養老ホーム
ショートステイ

ご利用者様の併せつリズムに沿った支援

1. 課題
 利用者の目標:
 「併せつタイミングではないときに
 トイレ誘導が難しく、睡眠の質が…」
 職員の間:
 「適切な併せつ支援のタイミングでないと業務負担が増大」

2. 機器の特徴
 併せつ予知システム **DFree**
 睡眠中の尿意を
 センシング！





尿意 / 覚醒の
状態が現実的
にわかる！



夜中・夜間ロボット
車椅子支援ロボット
よりUSCAN



3. 「2つの介護ロボット」を組み合わせたより大きな効果
 施設に段がたまり、覚醒・睡眠が流れている状態の
 タイミングでトイレに誘導



→職員が、双方の課題を意識して
2種類の機器を活用し課題を解決！

事例
03

**特別養老ホームから
ショートステイ**

ご利用者様の夜間の見守り支援

1. 課題
 利用者の目録：「夜間・何処まで移動に来られると、朝晩の顔が。」
 職員の方の補：「定時視聴や見守りセンターの通知による
 居室への訪問対応の業務負担が大きい」

2. 機器の特徴
 見守り支出口ポート **Neos+Care
HitimeQ**
 見守り支出口ポート



カメラの
センサーと、
マット系のセンサー
を組み合わせるよ



見守り支出口ポート **愛知SCAN**
見守り支出口ポート **愛ひQつじ**




3. “2つの介護ロボット”を組み合わせることのさらなる効果
 ①手元の端末に通知→表示された画面より「何時何分を確認したい」を確認するべき通知→②利用者の位置を確認

**職員が、双方の課題を意図して
2種類の機器を活用し課題を解決！**

22

事例 05 科学的介護情報システム（LIFE[®]）の取り組み

1. 課題
 利用者の目標：「自分らしい、自立した生活を送りたい（自立=QOL^{®2}）」
 職員の問題：「『介護職員等3つの向上』と同時に『負担を軽減』するには、IT[®]に基づいた『ケアの最適化』をどうして実現できるか？そのためには構築したITが持つ『ケアの最適化』を最大限活用することが不可欠！」

2. 「LIFE」のPDCAサイクル

利用者の目標：「自分らしい、自立した生活を送りたい（自立=QOL^{®2}）」

職員の問題：「『介護職員等3つの向上』と同時に『負担を軽減』するには、IT[®]に基づいた『ケアの最適化』をどうして実現できるか？そのためには構築したITが持つ『ケアの最適化』を最大限活用することが不可欠！」

「LIFE」のPDCAサイクル

ケアのプランニングを支援する計画書を作成

ケアのプランを実行

利用者の状態やケアの実績等の評価・記録・入力

計画書等に基づいたケアの実施

データ連携(自動)

データ連携(自動)

データ連携(自動)

ショートステイ
家庭

**事例
07** 無線LANアクセスポイントの活用

1. 課題
 利用者の目標：
 「利用中もストレスなく、自分らしい生活を送りたい。」
 利用者の目的：
 「見守り支援ロボットなどからの通知ができるだけ早く知りたい。」

2. 課題の特徴
 無線LANアクセスポイント **ACERA1110**

見守り支援
ロボット



無線LAN



リアルタイムで通知される
 など、必要なタイミングで
 対応が可能!



介護味"か"やICT機器を活用した方が安定的に稼働することで、スタッフの介入頻度が抑えられ、必要となさだけ利用者の暮らしをいかにすることが可能に。

⇒ 利用者の方々の生活の質(QOL)が向上

⇒ デジタルネットワーク環境を活用すること
 で、ご利用者、職員ともにストレスが軽減!



【各設備の使い方】
はじめての方へ
「情報発信」
機能を利用
（会員登録
後利用可能）

DP Free 取りSCAN

事例 02 お元氣な高齢者へのフレイル予防

サービス



社会福祉
鈴鹿



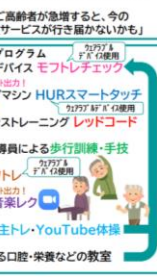
社会福祉
鈴鹿

1. 課題

利用者の目標：
「いつでも自分で行えることは自分でしたい」
職員の目標：
「介護が必要なく高齢者が増加すると、今の職員数では介護サービスが行き届かないかも」

2. 健康寿命延伸プログラム

- ① 体力測定[※]デバイス **モフレトレエッグ**
※9分15秒で4→5出力
- ② トレーニングマシン **HURSスマートタッチ**
※4→5出力
- ③ 体幹・バランストレーニング **レッドコード**
※4→5出力
- ④ 機能訓練指導員による **歩行訓練・手技**
※9分15秒で4→5出力
- ⑤ 軽体操 **モフレ**
※9分15秒で4→5出力
- ⑥ オンライン音楽レク[※]
- ⑦ 自宅での **自主トレ・YouTube体操**
- ⑧ 専門職による口腔・栄養などの教室



1クール
：3か月

※1 体力測定はモフレエッグ[®]と、2分間の時間差を有するモフレエッグ[®]の2台を同時に使用し、各1分間の測定を2回実施し、合計2分間の測定結果を平均した値を出力する。

※2 トレーニングマシンはHURSスマートタッチ[®]と、2分間の時間差を有するHURSスマートタッチ[®]の2台を同時に使用し、各1分間の測定を2回実施し、合計2分間の測定結果を平均した値を出力する。

※3 音楽レクはモフレエッグ[®]と、2分間の時間差を有するモフレエッグ[®]の2台を同時に使用し、各1分間の測定を2回実施し、合計2分間の測定結果を平均した値を出力する。



MoFit+
ヘルシー マジ



MoFit
ヘルシー マジ



MoFit
ヘルシー マジ



MoFit
ヘルシー マジ

社会福祉法人 鈴鹿福祉会
鈴鹿グリーンホーム

[illegible][illegible]

事例

0.8 ホームページによる情報発信

- 課題**
利用者や家族、地域の方々の目録：
「施設や事業所などでのよく知られていない」
職員が目録：
「自分たちが準備してきたで思い込んでいることを知ってもらい！」
「介護の仕事をしてみたいと思っている方々に情報を届けたい！」
- ホームページの特徴**
迅速な更新が可能で、介護関係の日常などを日々発信
迅速な更新が可能な活動記録、事業計画などは
「法人沿革・情報公開」で公開
③ 「ワークライフバランスの促進」は職員向けに「」の形で掲載
④ 「スマホ・タブレット・PC 全タイプの端末に対応」
⑤ 「Web ページ上で利用可能」
⑥ 「各事業所のイベント」などがダウンロード可能
⑦ 「利用料金」の目安を掲載
⑧ 「ホームから質問や回答ができる」
⑨ 「理事長メッセージ」は毎年更新



ユーザビリティを考えたシンプルなデザインなので、とても見やすい！



グリーンホームの中身がよくわかる。

介護現場の職員から日々、情報を発信することが、地域情報や職員のモチベーション向上につながっている！





社会福祉法人 鈴鹿福祉会
鈴鹿グリーンホーム

鈴鹿市 鈴鹿市役所